

長引く咳は赤信号

過去の病気ではありません

「結核」に注意！

- 結核は、今も全国で年間約20,000人の患者が報告されています。山形県でも毎年約100人の方が新たに結核と診断されています。
- 結核は怖い病気ではありません。早期発見、早期治療で治る病気です。

咳が2週間以上続いたり、痰や胸の痛み・微熱などの症状が長引くときは、早めに医療機関を受診しましょう。



結核とは？

◆症状(身体にどんな変化が起こるのか？)

咳、痰、発熱などの風邪によく似た症状で始まります。2週間以上咳が続いていたら、医療機関を受診しましょう。結核の症状には、このほかにも、痰に血が混じる、食欲が減る、体重が減る、微熱が続くなどがあります。

◆感染経路(どのように感染するのか？)

患者が咳やくしゃみをした時に、結核菌が空中に飛び散り、それを肺の奥まで、吸い込むことで感染します(空気感染)。

感染と発病

結核菌に感染したからといって必ず全ての人が発病するわけではありません。

◆感染

結核菌を吸い込んでも多くの場合、体の抵抗力により追い出されます。しかし、しぶとく体内に残ることがあり、免疫が菌を取り込み「核」を作ります。この免疫で封じ込められたまま活動していない状態のことを「感染」といいます。

◆発病

結核菌が体内で活動を始め、増殖し、肺などに病巣を作り、症状が出てくることです。発病する方は感染した方の10人に1～2人とされています。

◆感染から発病までの期間(潜伏期)

潜伏期間は他の感染症に比べて長く、多くは感染後数ヶ月～2年以内です。ただし、数十年後の発病もあり、最近の高齢結核患者の多くは、若い頃に感染して肺の中に潜伏していた菌が、抵抗力の低下などにより増殖をし発病したものとされています。

結核の検査方法

結核の検査には、感染したかどうかを調べるものと、発病したかどうかを調べるものがあります。

【感染したかどうかの検査】

- インターフェロン遊離試験 (QFT 検査等)
 - ・ 少量の採血を行います。
 - 血液中のインターフェロン・ガンマ (IFN- γ) という物質を測定して、感染しているかを判断します。
- ツベルクリン反応検査
 - ・ 腕の皮膚表面 (皮内) にマメを作るように検査液 (ツベルクリン液) を注射し、2 日後に発赤の大きさなどを測定します。

【発病したかどうかの検査】

- 胸部レントゲン検査
 - ・ 胸のレントゲン写真を取り、肺の病巣を見ます。
- 喀痰検査
 - ・ 痰を複数回採取し、結核菌の有無を見ます。



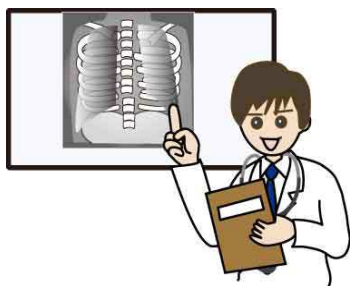
結核の治療方法



抗結核薬と呼ばれる複数の薬を 6～9 ヶ月服用して直します。治療で大切なことは規則正しい服薬です。結核として診断されても、毎日きちんと継続して服薬すれば治ります。

結核を予防するには？

- 2 週間以上咳が続くようなら、医療機関を受診しましょう。
- 小児では、重症結核になりやすいので、予防として、BCG ワクチンの接種を 1 歳までに受けましょう。
- 職場や住民健診で胸部レントゲン検査を定期的に受診し、異常を指摘された場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。



発病していない人が他の人に感染させることはありません。また、結核の患者さんでも、薬をきちんと飲めば、感染性は 2 週間ほどでなくなります。偏見を持たず、安心して治療ができるよう、支えてあげましょう。

結核を正しく知る、自分や周囲の健康を気遣う、
それがまん延防止の第一歩です！



山形県